



～小・中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第8号

# 学びのコンパス



## 事例21

嵯峨中学校の実践例から……

### 自己管理ツールを活用し、学習習慣の改善につなげる

嵯峨中学校では「最優先事項を確認し、大切なことをする時間をまず確保できる生徒」の育成を目指し、自己管理ツール「エスノート」を平成27年度から活用しています。平成29年度からは校下3小学校の6年生にも導入しました。時間管理能力の向上や学習習慣の改善につながった、エスノートのヒミツを紹介します。

1 今週のやること

2 家庭学習時間の「目標」「結果」  
今週の自分の点数

3 ほめ！ポイント

4 さらに！ポイント

5 来週にむけて

6 メモ

7 振り返り

### エスノートとは？(SAGAの“S”)

生徒自らが、「やるべきこと」や「やりたいこと」を明確にするための自己管理ツール・手帳です。スケジュール帳の書き方や時間の使い方を身に付けることができます。これは、高校・社会人生活等で生きる力でもあります。

◎自分と向き合う	To Do リストを書くことで、今すべきことを考えます。 また、振り返り、反省を行うことで今の自分と向き合うことができます。
◎なりたい自分になるためのやるべき行動を習慣化する	設定した目標を一つ一つ達成し、なりたい自分に近づくことができます。目標を達成すると新たな目標を定め、常に進化し続けます。

### 生徒の使い方

- ・週初めのエスノートタイム(10分間)で、1週間の計画の他、週目標や家庭学習の時間目標を記入。また、「今週やりたいこと」をする日時を仮決定します。
- ・毎日の終学活で、「明日の時間割や持ち物などが書けているか」を班内で確認し、OKなら生徒会が作成したオリジナルハンコを押します。
  - 時間割 ■持ち物 ■宿題 ■小テストの実施
  - 部活の予定 ■テスト範囲・時間割
  - 学習時間の総量 ■欠席連絡や部活見学連絡など、何かあればエスノートに適宜記入・記録しています。

### 教職員の関わり

- ・生徒が慣れるまでは終学活で見てもわったり、集めたりします。
- ・記入箇所を全て書くことにこだわらず、学年で「ここだけは書かせる」という部分を決めて実践しています。
- ・エスノートは提出するためのものでもなく、教職員が管理するものでもありません。そのため、**提出や点検は子どもの状況に応じて行います。**
- ・エスノート大賞を年1回実施しています。夏休みに各々が書いた勝負ページの中から良いものを班で1つ選出した後、その中からクラスの代表作品を1つ選出します。各クラスの代表作品を学年教員が選定し、大賞を決定します。

### 成果

- 主体的な学習**：主体性・自主性が大きく向上し、自ら学習する姿勢が身に付いている。
- 学習習慣**：学習習慣が身に付き、学習時間が大きく増加している。
- 時間管理**：時間を大切にしようとする意識が大きく向上している。
- 見通し力**：先のことを見通して行動しようとする意識が大きく向上し、計画力が高まっている。
- 自己肯定感**：「振り返り」の繰り返しによって成長実感を持ち、自己肯定感が高まっている。



# ひらがな聞き取りテストと補充指導のプログラムについて

学習障害のある子どもたちを中心に、小学校低学年で特殊音節や音韻認識の習得に困難さがみられるケースがあります。こうした困難は自力では解消しにくいとも言われており、その結果、学習意欲の低下や学力不振、さらに行動面の不安定さにつながることもあります。

そこで、特殊音節や音韻認識でつまずいている児童を**早期に発見**し、改善のための**特性に応じた指導を行う**ために、低学年対象の「ひらがな聞き取りテスト」と補充指導のプログラムを紹介します。

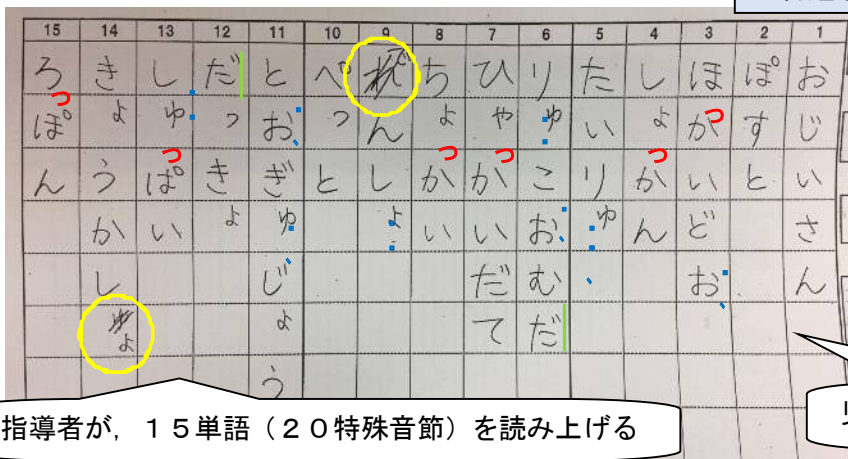
★詳細は、光京都イントラの総合育成支援課のページをご覧ください★

光京都イントラ⇒●3各課のページへ⇒総合育成支援課⇒7ひらがな聞き取りテスト

～テストや補充指導の実施方法や教材、説明会や研修会の動画を掲載～

## ひらがな聞き取りテストとは

- ◆小学校1年生からできる読み書きのテスト
- ◆普通学級の担任が一斉指導の中でできる



特殊音節の誤り数だけでなく、誤り傾向、誤りパターン、文字想起の傾向等も分かるので、**学級での支援のヒント**になります。

指導者が、15単語（20特殊音節）を読み上げる

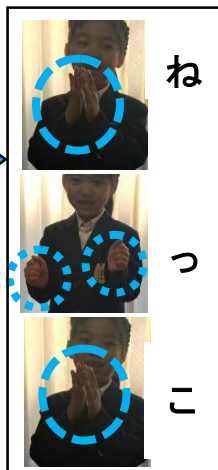
児童は、聞き取って記録用紙に書く

## 補充指導のプログラム

特殊音節につまずいている児童には、目に見えない音を見えるようにしたり、ルールを伝えたりして、習得を図ります。

～つまる音の場合～

視覚化・動作化



ルールの明確化

動作化時の定例的なルールや、「おおかみ」など長音の文字表出の例外ルール等、特殊音節ごとにルールを確認

『ねこ』は二つの音からできているので、『ねこ』と2回手をたたきます。  
『ねっこ』の場合、二つの音からできていますが、間に1つ文字が隠れています。  
だから、動作では、両手をグーにして間に文字があることを表します。」

★ひらがなの指導力向上にも活用できます★

ひらがなの指導時にも使える手法や教材を、光京都イントラに掲載しています。

【音韻認識】単語について、いくつの音のかたまりに分かれているか、さらに、どの音がどの順に並んでいるかを理解する力。

【特殊音節】ひらがなの文字と音が1対1に対応しないものをいい、「拗音」「促音」「長音」「撥音」と、その組み合わせがある。

【成果】平成28年度<小学校46校、児童約3300名（1～3年生）にテストを実施>

**低位**（※）を示した児童は、**全体の15.1%**（データを検証した1383名中209名）。そのうち、児童136名に補充指導を実施したところ、**85%**（115名）が**平均域へと改善**しました。習得が困難な児童については、LD等通級指導教室入級も視野に入れます。

平成29年度は91校で実施しました。

※「低位」の児童：困難群（-1～-2標準偏差）と、要注意群（-2標準偏差以上）の児童

「ひらがな聞き取りテストと補充指導のプログラム」は、標準化されている『平仮名单語聴写テスト』（村井敏宏氏）と、『多層指導モデルMIM』（海津亜希子氏）を基に、本市の景山功一先生（向島南小学校教諭）が作成されたものです。



## 事例22

金閣小学校の実践例から……

### 特殊音節の習得を図り、学力の向上へ 《 ひらがなの単元における、視覚化と動作化を取り入れた指導 》

ひらがなの力を身につけることは、学力や生活全般の素地を築く重要な要素です。

金閣小学校では、全児童のひらがな習得を目指し、「ひらがな聞き取りテストと補充指導のプログラム」を活用した実践を行っています。2年生を対象にした本テストと補充指導の実践、そして、1年生の授業における補充指導の手法を用いた特殊音節の指導について紹介します。

#### ①テスト実施状況

6月に、2年生児童全64名にテストを実施した結果、8名の児童を対象に補充指導を行うことになりました。

#### ②補充指導の内容

##### 視覚化

板書やマグネットで視覚化する。



##### 動作化

手を合わせたまま下へ下ろす（長音）。



##### ことばあそび

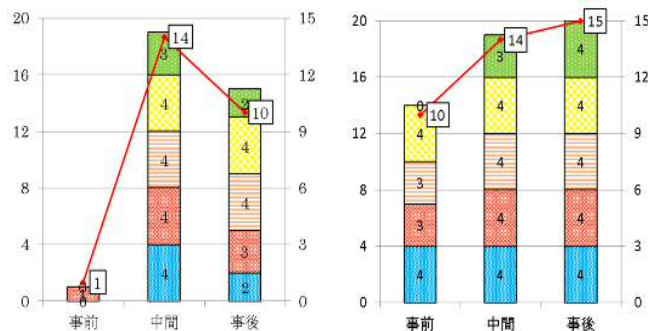
フルーツバスケットや早口ことば等、遊びを通して、学習の習熟を図る。

光京都イントラに掲載されている略案・教材を活用しています。

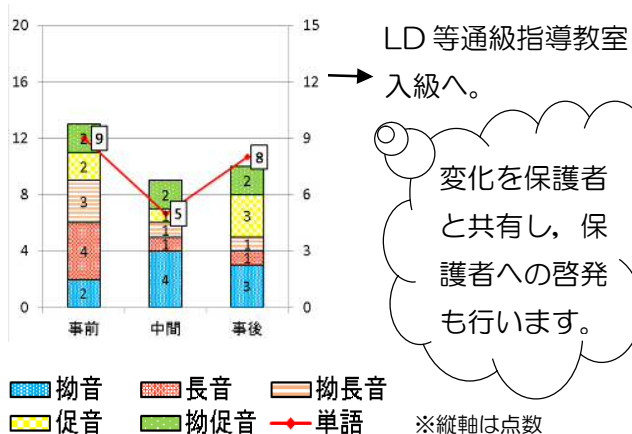
#### ③補充指導後の児童の変容

11月の中間チェック時、8名の児童のうち6名が特殊音節を習得していることが分かり、指導を終了し、他2名は補充指導を継続しました。補充指導後も改善が見られない1名については、LD等通級教室へつなげました。

##### ＜改善したケース＞



##### ＜改善しなかったケース＞



LD等通級指導教室  
入級へ。

変化を保護者と共有し、保護者への啓発も行います。

※縦軸は点数

#### 1年生のひらがなの単元で動作化を導入

■動作化を取り入れると、児童の反応がよく、楽しみながら学習に向かうことができました。

■一斉に音読を行う際、必ず手の動作をつけながら音読するようにしました。また、宿題の音読や書字は、動作をしながら行うよう習慣づけました。

1月中旬、1年生を対象にひらがな聞き取りテストを実施したところ、低位を示した児童は全体の8%（49名中4名）という結果でした。点数のばらつき（標準偏差）も前年度に比べ小さくなっています。

# 事例23

光徳小学校の実践例から……

## 毎月、学力向上の取組を明確に！すべての教職員で共通実践！

学力向上の取組は継続的なものであり、PDCA サイクルで実践されるべきものです。

光徳小学校では、学習スタイル確立に向けた基本的な視点と指導方法に加え、月ごとに重点的に取り組む目標を明確にした文書（表面：月間目標、裏面：学習スタイル〈年間を通して同内容〉）を、学力向上委員会で発行しています。また、職員室に常時掲示も行うことで、教職員の共通理解と実践の展開を図っています。

### 学習スタイルをつくる

基本的な視点と具体的な指導の方法を基に、各学級・学年で実態に合わせてさらに工夫を加える。

### 主体的に学び合う学習集団を育てる

### 指導の方法「大切にしたいこと」

#### 基本的な視点

- ① しっかり話が聞けるか。  
⇒静かになってから話し始める。
- ② 一人一人が学習に向き合っているか。  
⇒めあてや指示を明確にする。
- ③ 話し合いができるか。  
⇒ペアやグループでの話し合い活動を積み上げる。
- ④ 一部の負の影響を与える行為に流されていないか。  
⇒互いに学び合う学習集団を育てる。
- ⑤ 子どもの学習活動が十分に考慮、確保されているか。  
⇒意図や流れのある授業展開。指示や説明は簡潔に。



#### 学習環境

- 教室内の清掃が行き届き、整理整頓されている。
- 授業開始時の黒板は拭いてきれいにしておく。
- 子どもの特性、人間関係、学習活動の形態、身体状況（視力や聴力、身長等）を考慮した意図的な座席配置にする。



#### 授業

- ねらい（意図）をもって学習活動が展開する授業を構築している。
- 「めあて」と「まとめ」「ふりかえり」を対応させ、板書とノートに繋げる。
- ICT機器を活用し、学習意欲を高める工夫をする。
- 時間配分やモデルを示し、見通しを持たせる。
- 早くできる子どもには、次の課題を示す。

#### 教員の話し方

- 全体を見回し静かになったら話す。子どもが聴いているかを確かめながら話す。子どもを惹きつける話し方を工夫する。
- 子どもが混乱しないように、精選した言葉を用いて、明確な発問や指示を出す。（発問と指示は混同しない）
- 「短い言葉（簡潔に）」「はっきりと（明確に）」「メリハリ（声の抑揚）」を意識して話す。視覚的な方法も活用する。
- 指示は一つ一つ段階的に出す。子どもの活動の経過を見ながら、指示の内容を増やしたり、主体的な動きを促したりする。
- 発問や指示を出した後、子どもの様子をよく観察し、混乱しているようならば修正する。
- 番号を打ち、順番に説明する。（例：「今から3つのことを言います。1つ目は……。次に2つ目は……。最後に3つ目は……。」）

#### 発表・話し合い活動

- 聞き手の方を向き、届く声で話せるようにする。
- 話し手の方を向き、最後までしっかり聞けるようにする。
- 思いや考えを話せる「型」を提示し、活用できるようにする。
- 手本となる子どもの姿や、指導の方法を共有し、授業に活かす。
- ペア・グループ討議を入れる。

#### 書く

- 「書き出し」や「文末」、文章構成の「型」を掲示。
- モデル文の構成を分析し、書き方のヒントを発見させる。
- 字数や時間を制限する。
- 手本となる児童の文章や、指導の方法を共有し、授業に活かす。
- 考えを整理して書けるように、メモや話し合いを取り入れる。

### 学力向上の取組

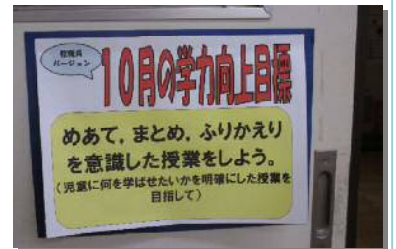
学力向上のための教職員の取組を明確にして共通実践する！

教職員が目標を意識できるよう  
文書による発信

学力向上委員会が  
毎月の目標設定



- 「子どもが静かになるまで話し出さない。」  
■静かな状態をつくり授業に集中できるようにする。正しい聞き方の姿勢を確立して授業に臨めるようにする。
- 「話す場を設定し、話し方の指導をしよう。」  
■話し方や話し合い方を「型」として教える。発表しなればならない状況をつくる。
- 「ペアトークを毎日取り入れよう。」  
■話し合い活動の充実をさらに図る。授業に全員が参加する。1回は発言する機会を設定し、子どもが黙ったまま45分過ぎさない。



#### スキルタイム（帯時間）の重点取組

- 毎月、各学年で取組の重点を決定する。
- 実態や達成状況により継続 or 変更する。
- 問題データベース等を活用し、基礎・基本の学習を積み重ねる。
- 計算・文章題・原稿用紙の使い方・日記・文章の書き方・作文等

#### 家庭学習

- 学年ごとの学習時間を決め、声をかけて意識づける。（10分 or 15分×学年）
- 家庭での読書習慣の定着を図るため、定期的にクラス全員で図書室に行き、貸出を行う。

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★  
光京都イントラ>●3 各課のページ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 平成30年3月・第8号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課  
小中一貫教育・学校運営企画担当(TEL.222-3801)